心の瞳

暗く湿った過去の物語を後に残し、長い階段を上ると、陽光溢れる今に開放される。刹那、世界が真っ白になる。ほどなく瞳の明順応で、色彩が戻ってくる。しかし、多くの悲しみに触れた心の瞳が、縮瞳するためには、少しく立ち止まる時間とそれを優しく包み込む場所が必要になる。

忘れるためではなく、心に刻むために。
眼下に広がる街並みを眺めると、取り残されてしまった心が、その距離を縮めてくる。

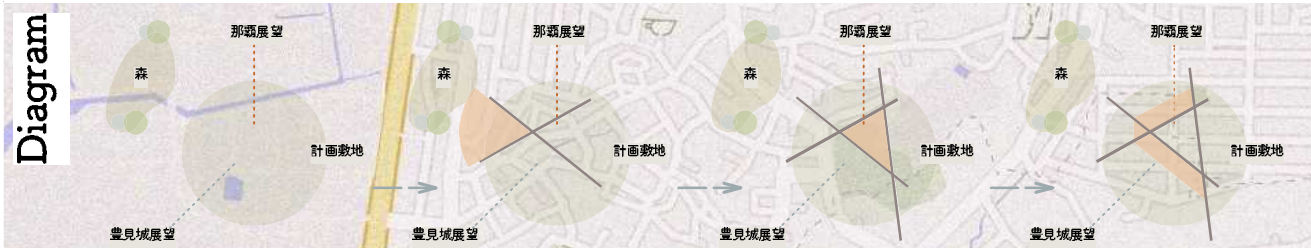
影と光をやさしく紡ぎながら、心の瞳が見つめる「一番大切なもの」、その輪郭を肌で感じるような空間を提供したい。

Story

敷地

海軍豪公園は、那覇市南西の豊見城丘陵の那覇市、豊見城市を一望できる場所に位置する。第二次世界大戦末期には、日本海軍の司令基地がおかれ、激しい戦闘の末、日本海軍が組織的戦闘の終焉を迎えた場所である。

Diagram

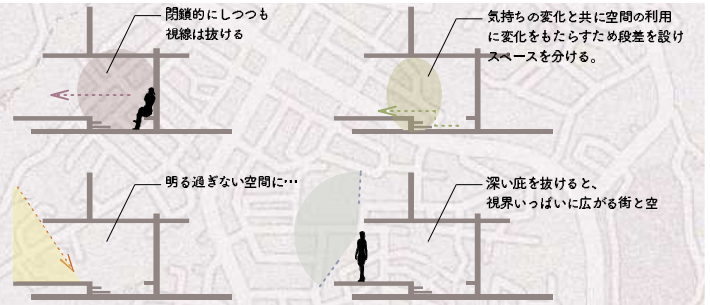


街が見えにくい森のスペースを区切り
眺望の良い、南西側と北東側に開く。

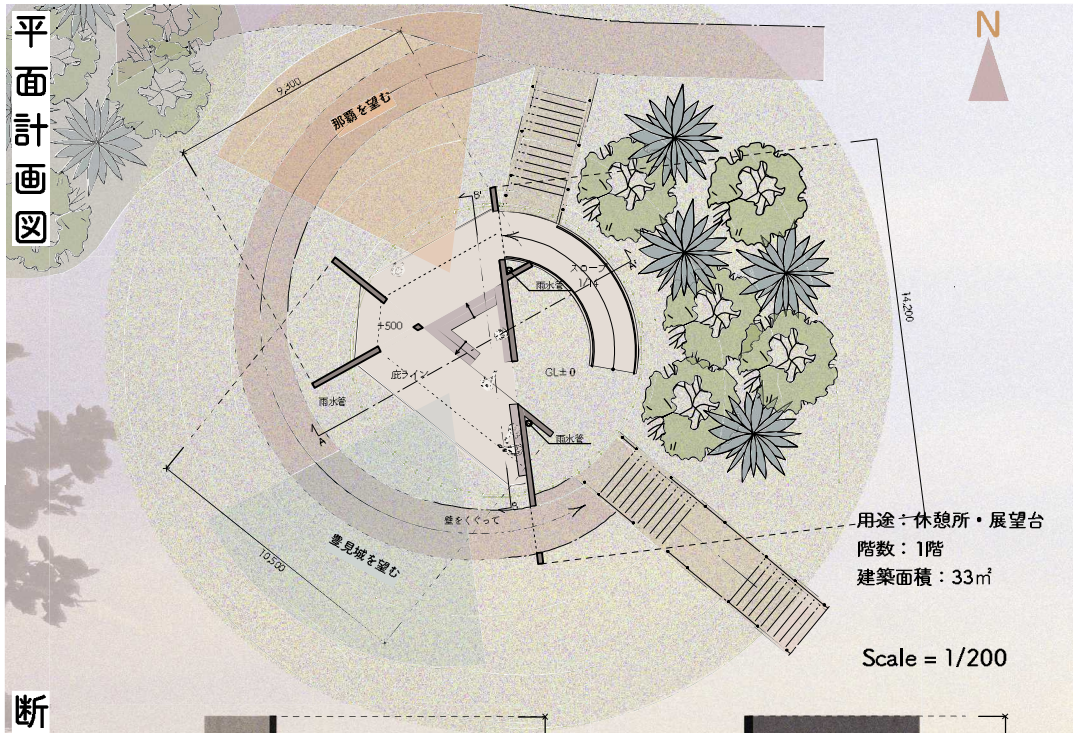
内部空間を作り、休憩スペースを設ける。
３つの壁で内部を囲い、薄暗い空間を演出。

建物外部に展望スペースを設ける。
深い庇は、外部からの光を抑える。

空間構成



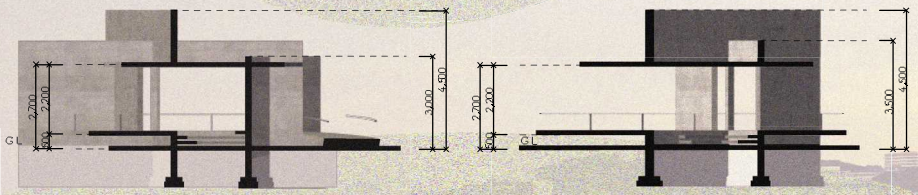
平面計画図



用途：休憩所・展望台
階数：1階
建築面積：33㎡

Scale = 1/200

断面計画図



AA'断面図　　BB'断面図

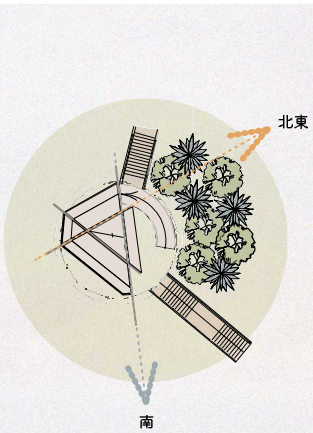
Scale = Non scale

屋根伏図

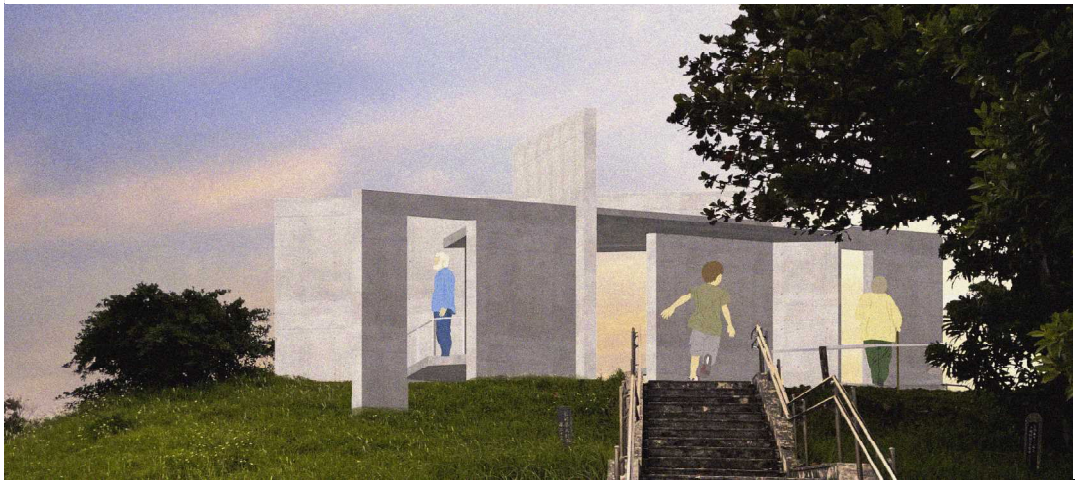
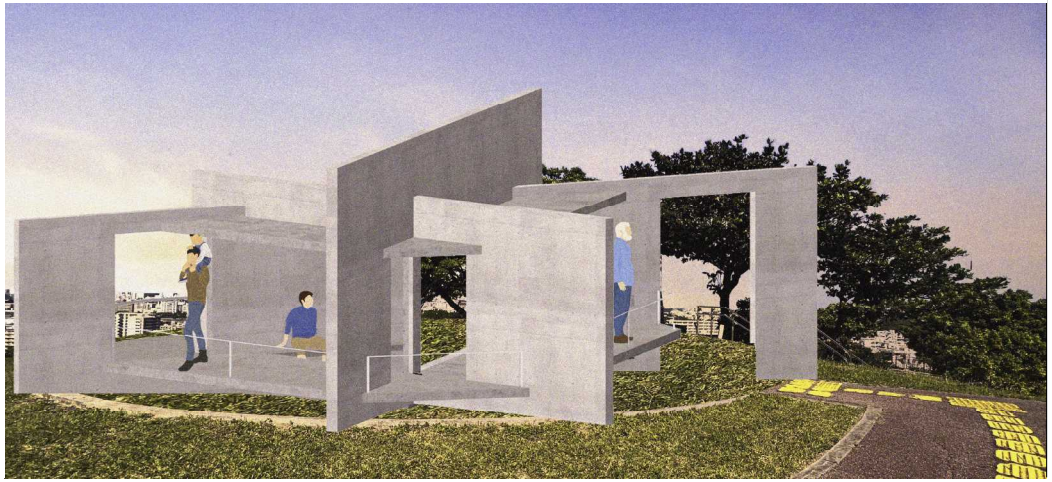
「帰馬放牛」

本展望台は、那覇市街と豊見城の街並みを西に臨み、緑豊かな丘を背に佇む。建物を支える3つの壁のひとつは南（午の方角）へ延び、もうひとつは、北東（丑の方角）に伸びている。中国の故事に、「馬を崋山の陽（みなみ）に帰し、牛を桃林の野に放つ」という言葉がある。
周の武王が、殷の紂王を倒したのち戦の愚かさを悟り、「軍馬を雄大な崋山の麓に帰し、牛を実り多きのどかな桃林の野に放とう。」と詠じ、「もう二度と戦はしまい。」という誓いを述べたものである。

海軍壕の史跡を訪ね、見晴らしのよい展望台に立った時人それぞれ去来する思いは異なっていても、眼下に広がる平和な風景を、かけがえのない一人ひとりの生命を、二度と戦争で奪ってはならないという思いは、同じなのではないだろうか。



Scale = Non scale

豊見城方面を望む

那覇方面を望む